

総持寺こ線人道橋のバリアフリー化について

～JR 東日本と共同でバリアフリー化に着手します～

1 経 緯

JR 鶴見駅に近い総持寺踏切は、東海道線や横須賀線など11の線路を横断する延長60.1mの踏切です。ピーク時の最大遮断時間が1時間あたり58分で、朝夕のラッシュ時には、踏切を渡ることが、ほとんど出来ない状況となっています。

踏切に隣接してこ線人道橋（昭和56年設置）がありますが、現在、階段のみであるため、お年寄りやベビーカーを使用する方の中には、踏切を渡る方もいます。踏切を渡りきる前に遮断機が下りることもあり、エレベーターや斜路付階段の設置について、ご意見・ご要望をいただきました。

このため、総持寺こ線人道橋を「横浜市踏切5箇年整備計画」に位置付け、バリアフリー化に向け調整を進めてきましたが、この度、東日本旅客鉄道株式会社と共同で、エレベーターと斜路付階段の設置工事に着手することになりました。

『エレベーターと斜路付階段』の整備により、お年寄りや障害のある方、ベビーカーを使用する方や幼児を連れの方などにとって利用しやすくなり、安心して鉄道を横断することができます。

2 現 況

【現況写真（鶴見中央五丁目側から撮影）】

【位置図】



総持寺こ線人道橋



総持寺踏切のデータいろいろ

横浜市内には、現在170箇所の踏切があります。総持寺踏切は、

- 踏切延長（60.1m）・・・市内で最長（JR 東日本管内でも最長）
- ピーク時の最大遮断時間（58分）・・・市内で2番目
- 1日の最大遮断時間（15時間）・・・市内で最大

3 工事の概要

エレベーターの仕様	ウォークスルー型、車椅子・ベビーカー・自転車対応可
階段の仕様	斜路付階段（幅員2.1m）、勾配14°
事業費	約5億8千万円
工事期間	平成20年10月～平成22年3月（予定）

※工期は1年6か月を予定しておりますが、
エレベーターについては来春からの供用を予定しています。

4 計画図面



5 横浜市踏切5箇年整備計画

横浜市では、踏切の安全対策を推進するため、『横浜市踏切5箇年整備計画』（平成18年度～平成22年度）を策定し、緊急性が高い31箇所の踏切に対し、安全対策を集中的に進めています。

平成19年度までに、鶴見小野踏切など3箇所の構造改良（踏切の拡幅）、16箇所のカラー舗装化（歩道部）を実施しました。平成20年度以降も、総持寺こ線人道橋のバリアフリー化及びその他の踏切について、順次、構造改良を進めていきます。